

冬に起こりやすい静電気。

服を脱ぐときやドアノブを触ってバチッとくる瞬間、そして、女性はスカートやストッキングなど、何とも嫌な感じがしますね。



### 静電気を予防するには？

不快な静電気を予防するには、静電気の発生を抑えたいことが基本です。いろいろな方法がありますので、組み合わせて予防するのが良いでしょう。

### 部屋や車の中の湿度を保つ

空気が乾燥している冬の日、静電気は起きやすくなります。

湿った空気はある程度電気を流すのに対し、乾燥した空気は電気をあまり流しません。そのため、摩擦などによって電気が生じたとき、乾燥している空気に電気が逃げにくく、その物質に静電気がたまりやすくなります。加湿器を使ったり、観葉植物をおいて水をやったりするなどして湿度を保ちましょう。

### 衣類の素材やその組合せを考える

衣類は素材によって、電気を帯びにくい性質、プラスに帯びやすい性質、マイナスに帯びやすい性質に分けられます。電気を帯びにくいのは綿や革など。ウール、ナイロンなどはプラスに帯びやすく、ポリエステルやアクリルなどはマイナスに帯びやすい素材です。

同素材のものを組み合わせるより、プラスに帯びやすい素材とマイナスに帯びやすい素材を重ね着するほうが、同じ力で同じ力で摩擦しても静電気の発生量が大きくなります。

静電気最小限に抑えるには、電気を帯びにくい綿や革などを選ぶ、あるいは同素材のものを組み合わせると良いでしょう。

### 体にたまった静電気をゆっくり逃がす

電気をよく通す金属製のドアノブなどに触ったときに、バチッとくる放電が起こるのは、指先にたまっている静電気が逃げ場を見つけて、ドアノブに一気に流さずにゆっくり逃がせば、この放電を防ぐことができます。

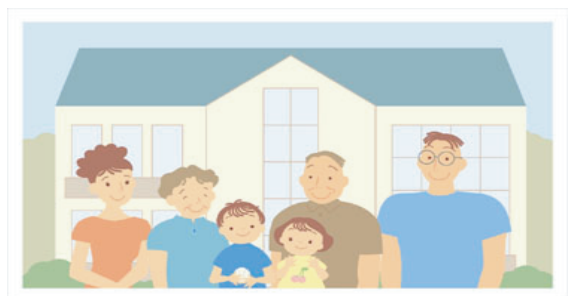
電気を通しにくい物質、例えば、本皮製品や木片、コンクリートや石の壁などに触れると、静電気は一気に流れず、ゆっくり逃がすことができます。

またとがったものより、広い面積の方がゆっくり逃がすことができる性質を持っているので、指先で触れずに、手のひら全体で触るようにするのも一つです。

なお、プラスチックやゴムなど電気を通しにくいものに触れても、電気を逃がすことはできません。靴の底がゴムのもは、地面にうまく電気が逃げないので、靴にも気を使ってみると良いでしょう。

衣類を脱ぐとき、片足の裏を柱につけて脱ぐと、柱へ放電され、静電気が起きにくいそうです。車をから降りる時、足を地面につける前に金属部分を触っておくと静電気が起きにくいそうです。お試しください。（この前たまたまテレビをつけたら実験してみました。）

もうしばらく、乾燥する季節が続きます。部屋の湿度を保ったり、服装を考えたりしながら静電気を防ぎ、快適に過ごしたいものですね。



TOYAスマイル倶楽部事務局

今治市玉川町中村甲677-7

有限会社十弥工務店内

TEL (0898)36-8182 FAX (0898)36-8183

E-mail : toya-info@toya.co.jp

URL : <http://www.toya.co.jp>